

小松市埋蔵文化財調査だより

第3号 1993.3.31

小松市教育委員会
埋蔵文化財調査室

〒923 石川県小松市小馬出町91番地
TEL (0761) 22-4111



はやしいせき すえき かまあと
林遺跡の須恵器窯跡

林遺跡は、7世紀前半頃の須恵器^{すえき}と呼ばれる焼物を生産した窯跡と、奈良・平安時代の製鉄跡^{せいてつあと}（炭窯^{すみがま}及び製鉄炉^{せいてつろ}）からなる大規模な生産遺跡です。平成元年より調査を開始し、平成4年度の調査をもって完了しました。写真は、平成4年度に調査した須恵器窯跡2基の全景です。丘陵斜面をトンネル式にくりぬいてつくった長大な地下式の登窯^{のぼりがま}で、斜面上方が煙出口、下方が燃料の焚口^{たきぐち}となります。焚口のさらに下方の斜面には、焼成後にかきだした灰とともに、失敗品が多量に捨てられています。また、右の写真は、不要の製品（坏^{つぎ}と蓋^{ふた}）が重ねられて窯内に残された状態のものです。



平成4年度の埋蔵文化財発掘調査

はやしい せき

林遺跡の調査

所在地 小松市林町地内

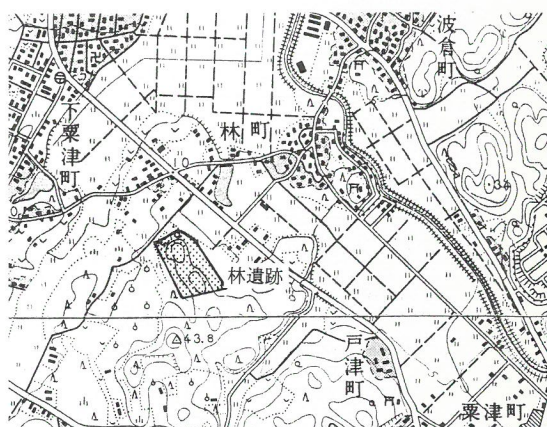
調査期間 平成4年4月8日～8月24日

原因 運動施設・会館建設

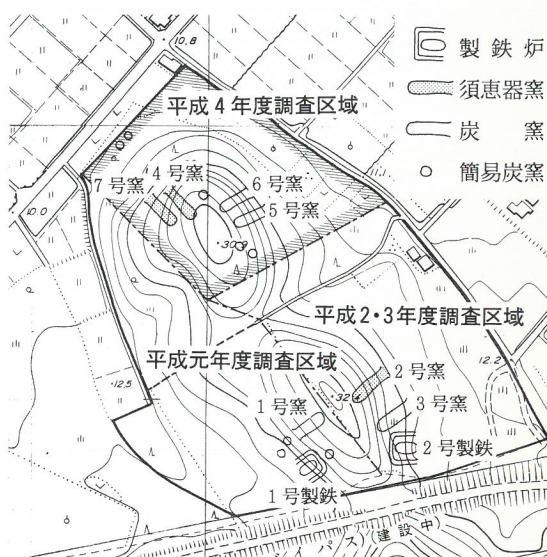
遺跡の概要 小松市の林町から加賀市の松山町に至る丘陵地には、古墳時代から室町時代にかけての焼物を生産した窯跡が200基以上密集しています。これらの窯跡群は南加賀古窯跡群と呼ばれており、北陸で最大級の規模を誇るものです。また、これらの窯跡群の分布に重複して、製鉄遺跡（製鉄炉や炭窯からなる）も数多く発見されており、北は蓮代寺町まで分布の広がりをみせています。林遺跡は、このような窯跡群・製鉄遺跡群の中に属するもので、平成元年より4年次にわたって調査を進めてきました。平成4年度の調査は、最終調査となるものです。

調査の概要 調査を行ったのは、地下式炭窯2基（5号・6号窯跡）、小規模な簡易炭窯6基、須恵器の地下式登窯2基（4号・7号窯跡）です。

地下式の炭窯2基は、山の斜面をトンネル式にくりぬいて縦長の焼成室をつくった窖窯の構造をとるものです。5号窯跡は、全長5.3m、最大幅1.6mを測り、床面は約10度の傾斜をもって奥壁の方へ漸次高くなっています。煙出しは、奥壁に1個、左右の側壁に各1個の計3個が設けられていました。出土した土器より、8世紀末～9世紀初め頃のものと考えられます。6号窯跡は、5号窯跡のすぐ横にはほぼ平行に築かれており、全長5.5m、最大幅1.4mを測ります。床面の傾斜や、



林遺跡の位置 (1/25,000)



発掘調査区域全体遺構配置図



遺跡全景



林遺跡5・6号窯跡（炭窯）

煙出しは5号窯とほぼ共通しています。5号窯跡よりは後に築かれたものですが、ほぼ近い年代のものと考えられます。この2基で焼成された炭は近隣の製鉄炉に供給されたと思われます。

簡易炭窯跡は、直径50～100cmの円形あるいは楕円形に地面を浅く掘りくぼめて焼成部としたもので、少量の炭を手軽につくるものです。このような炭は、一夜炭、あるいはカンジャ炭などと呼ばれています。特に場所を選ばず点在して築かれており、所属する時代は不明です。

須恵器の窯跡2基は、ともに長大な地下式登窯の構造をとるものです。須恵器とは、5世紀代に大陸から伝わった技術で焼成された土器で、それまでの野焼きによるもろい素焼きの土器とは異なり、登窯を用いて高温で堅く焼きしめた灰色から鼠色をした土器をいいます。この地域では、6世紀の初頭頃から生産が始まります。本遺跡の窯はほぼ7世紀前半頃のものです。4号窯跡は、全長10.8m、最大幅1.4mを測り、床面は約30度～35度の傾斜をもっています。7号窯跡は、全長10.9m、最大幅1.9mを測り、床面は30度前後の傾斜をもっています。急傾斜の床に製品を垂直に立て並べることから、滑落防止の目的で、砂を敷いた床に不要の製品を埋め込んで焼台^{やきだい}としたり(7号窯)、床に河原石を埋め込んで焼台とする(4号窯)などの工夫がなされています。斜面上方の先端が煙出し部分ですが、炎の引きを良くするためと考えられる溝が上方へ伸びています。また、煙出し口から横に垂れ下がる大きな溝があり、この窯跡の特徴的な施設となっています。このような溝施設をもつ窯跡は、南加賀古窯跡群や富山県の射水丘



林遺跡4号窯跡(須恵器窯)



須恵器窯跡航空写真(左・4号、右・7号窯)



林遺跡7号窯跡(須恵器窯)

陵窯跡群において、7世紀前半という短期間の間で集中的に存在し、西日本の各地でも数例報告されていますが、その性格や機能については明かにされていませんでした。しかし、7号窯で、溝底の傾斜が急となる部分に階段施設が全国で初めて確認されたことから、煙出し口の開閉や、窯の製品の出入れを行うための作業道としての機能が有力と考えられるようになりました。

製品は、窯体内からほとんど取り出されており、焚口下方の灰原と呼ばれる部分に、失敗品が灰とともにまとめて捨てられていました。

ぜにばたけいせき

銭畑遺跡の調査

所在地 小松市御館町

調査期間 平成4年9月1日～11月24日

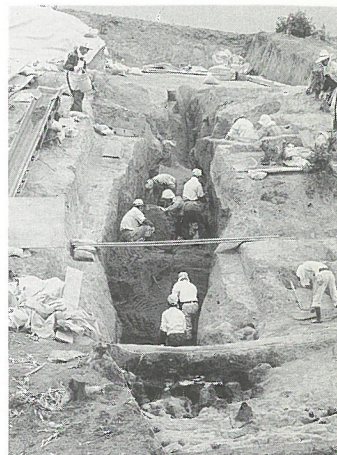
原因 レストラン建設

遺跡の概要 御館町の集落南方に隣接する遺跡で、銭畑という名は、江戸時代に鑄銭数百貫が発見されたことに由来しています。北側の現御館町集落を取り込むように御館遺跡がひろがっており、本遺跡と連続する中世の遺跡となっています。当地には、西掘、東掘、城門、御庵等の地名が言い伝えられ、現在の御館という地名とともに、中世に豪族の館があったことを示すものと考えられます。近年、北部の低湿地遺跡の調査が増加しており、中世のみならず、弥生時代以降、継続的に多くの遺跡が展開していたことが判明してきています。

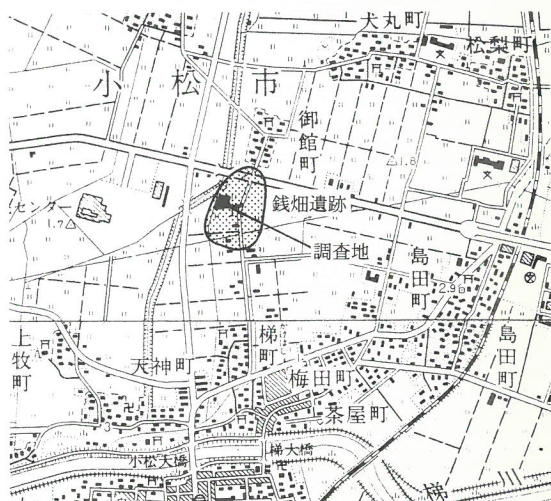
調査の概要 今回調査したのは、レストラン建設予定地の約900㎡です。本遺跡の主体である中世の遺構は、溝のみで、5条検出されていますが、そのなかで1号溝と呼んだ幅3m、深さ50～60cmの大型の溝からは、14世紀を中心とする土師器や陶器の他、下駄・曲物類等の木製品、五輪塔・宝篋印塔など石製墓塔も出土しています。また、16世紀頃に位置付けられる溝も検出されており、本遺跡が、鎌倉時代から室町時代(14～16世紀)というほぼ中世全般にわたるものであることが確認されています。一方、中世の遺構のほかに、弥生時代末から古墳時代前期



7号窯の溝で確認した階段



調査風景



銭畑遺跡の位置 (1/25,000)

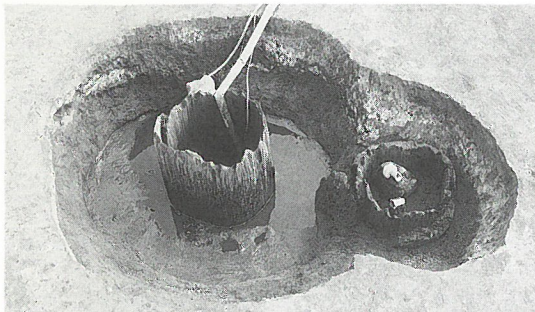


調査区域全景

(3世紀)の土坑、古墳時代後期(6世紀～7世紀)の溝と井戸、近世の溝等が検出されており、非常に長い時代にわたって断続的に生活の舞台となっていたことがうかがわれます。このなかで、古墳時代後期の井戸2基は保存状態が良好で、ひとつは、丸太を半裁してくりねいたものを合わせて井筒とするもの、もう一つは板材を円形に組んで井筒とするものです。この時期の遺物は、遺跡を被っている土層からも多く発見されており、調査区の近隣に集落が展開していると推測されます。



中世土師器出土状態



古墳時代後期の井戸



宝篋印塔出土状態



下駄(近世)出土状態

平成4年度 埋蔵文化財調査事業一覧

発掘調査	遺 跡 名	所在地	調 査 期 間	原 因	時 代 等	面 積
	林 遺 跡	林 町	4月8日～8月24日	文化会館建設(市)	古墳・奈良(窯跡)	11,500㎡
	銭 畑 遺 跡	御 館 町	9月1日～11月24日	レストラン建設(民)	古墳・中世・近世(集落)	900㎡
分 布 調 査	開 発 行 為 名 称		所 在 地	開 発 面 積	調 査 日	調 査 結 果
	宅 地 造 成(市)		千 木 野 町	131,000㎡	5月18日～6月2日 2月5日～2月17日	古墳時代?の遺跡確認
	土 地 区 画 整 理(市)		日 の 出 町	145,000㎡	10月21日～12月8日	弥生時代と中世の遺跡確認
	宅 地 造 成(民)		上・下八里町	207,639㎡	6月23日～12月17日	旧石器～奈良時代の遺跡確認
	無 線 電 話 局 新 設(民)		那 谷 町	937㎡	9月19日	遺跡発見されず
	宅 地 造 成(民)		光 陽 町	6,391㎡	9月4日・5日	遺跡発見されず
	配 送 セ ン タ ー 建 設(民)		蓮 代 寺 町	4,590㎡	10月7日	遺跡発見されず
	ゴ ル フ 場 造 成(民)		木 場 町	14,842㎡	10月19日～11月12日	遺跡発見されず
	宅 地 造 成(民)		若 杉 町	2,996㎡	11月6日	遺跡発見されず
	資 材 置 場 建 設(民)		戸 津 町	1,721㎡	11月4日～13日	遺跡発見されず
	資 材 置 場 建 設(民)		御 館 町	790㎡	11月24日～27日	御館遺跡の延長を確認
	宅 地 造 成(民)		御 館 町	2,091㎡	11月30日	遺跡発見されず
	ト ラ ッ ク タ ー ミ ナ ル 建 設(民)		犬 丸 町	9,072㎡	12月9日	遺跡発見されず
	宅 地 造 成(民)		丸 の 内 町	3,976㎡	12月21日	遺跡発見されず
	変 電 所 新 設(民)		荒 木 田 町	4,058㎡	1月6日	荒木田遺跡の延長を確認
	老 人 保 険 施 設 建 設(民)		北 浅 井 町	2,233㎡	2月5日	遺跡発見されず
	老 人 保 険 施 設 建 設(民)		岩 渕 町	9,551㎡	3月9日・10日	遺跡発見されず
	土 地 区 画 整 理(民)		北 浅 井 町	39,000㎡	3月22日	遺跡発見されず
	土 砂 採 取(民)		戸 津 町	1,471㎡	12月10日～21日	製鉄跡を確認
	土 砂 採 取(民)		戸 津 町	3,710㎡	3月11日～24日	炭窯を確認

(市)は市営事業、(民)は民間事業を示す。

小松の重要遺跡・遺物 ③

矢田野エジリ古墳出土埴輪

矢田野エジリ古墳は、矢田野町ワ－1番地に所在した前方後円墳で、位置としては、粟津駅の南方約400m、線路沿いの南部児童公園隣接地にあたります。昭和63年に、民間の宅地開発に先立ち発掘調査を実施しました。当地は、約1m近い盛土によって整地し、グラウンドとして使用されていたのですが、盛土を取り除いた結果、全く知られていなかった前方後円墳が姿を現したのです。しかも多量の埴輪を伴うものでした。古墳の大きさは、全長が約30mで、後円部の直径が15mを測ります。その周りを幅約2～5m、深さ約0.5～1.4mの溝（周溝）がめぐっています。当地は、整地する以前には建物が建っていたようで、古墳の盛土や埋葬施設はすでに破壊されており、周溝のみの調査となりました。しかし、本来、古墳盛土の裾に立て並べられていた埴輪の大半が、この溝の中に落ち込んでいたため、大量の資料を得ることができたのです。

復元された埴輪の総数は約70個体におよび、日本海側では最大規模の資料数となりました。埴輪には、普通円筒埴輪と呼ばれる土管状のものと、その普通円筒埴輪の上に朝顔の花のような口を付けた朝顔形円筒埴輪、人や動物の形に作った形象埴輪と呼ばれるものがあります。円筒埴輪がもっとも多く立てられるもので、員さ約50cm、口径約30cm、底径約20cmの大きさです。43個体が復元されています。朝顔形円筒埴輪は、円筒埴輪列の一部に割り込ませるもので、高さ約70cm、口径約40cm、

底径約22cmの大きさです。5個体が復元されています。形象埴輪は、人物埴輪11個体と馬形埴輪2個体が復元されました。人物埴輪は、円筒形の台の上に人物の上半身を乗せたもので、ほぼ60～70cmの高さに復元されます。いずれもスカートのような衣服の裾が表現されていますが、帽子の形や髪型、装飾品などを違わせて、ある儀式の一場面における登場人物を写實的に表現しています。その登場人物とは、神聖な儀式をつかさどる巫女、飾り帽子や首飾り、刀等を身につけた従者たち、ひざまづいて何かを唱えているような人、馬にまたがる人とその馬のたずなをひく人などです。馬形埴輪も、儀式用にふさわしい飾り馬具を付けられています。本遺跡の人物埴輪は、日本海側の北限資料であるとともに、このような充実した内容の人物埴輪群は、国内屈指の極めて貴重なものであり、小松市が全国に誇れる文化財でもあります。



普通円筒埴輪と朝顔形円筒埴輪



人物埴輪群



馬形埴輪と人物埴輪